

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-38

学校名・団体名	全日本盲学校教育研究大会・松本大会運営委員会
HPアドレス	http://www.zennichimouken.sakura.ne.jp/
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	「視覚障害教育の専門性の維持・継承と未来への展望」 ～将来を見据えた教育支援のあり方を考える～
〈活動・研究の意義、目的〉 視覚障害教育の専門的知見を後世に伝えるとともに、視覚障害教育の将来を見据えた教育支援のあり方についての研究・協議を行う。	

第90回平成27年度全日本盲学校教育研究大会・松本大会

今年で90回を迎える全日本盲学校教育研究大会は、全国の盲学校・盲特別支援学校の教職員および視覚障がい教育研究者で組織する会員数約3600人の我が国最大の視覚障がい教育研究団体による研究大会である。今大会では各地の盲学校・盲特別支援学校での日頃の研究成果・教育実践を研究・協議するため、全国より約300名の先生方にお集まりいただいた。研究報告は本大会後各学校においてさらに議論され、より高い教育実践へと展開されていくことが今大会の最大の目的であり、また成果となる。

<大会の概要>

開催日：平成27年7月30日(木)～31日(金)

場所：ホテル プエナビスタ(長野県松本市)

記念講演会：平成27年7月30日(木) 10時20分～11時30分

演題 「iPad、iPhone を用いたデジタルビジョンケア」

講師 三宅 琢 氏 (東京大学先端科学技術研究センター研究員、医学博士)

記念講演会では、ここ数年で急速に普及してきた iPad や iPhone を視覚補助具として利活用する方法について、ご専門の立場から三宅先生にご講演いただいた。先生は眼科医という臨床医の立場から視覚障がいからくる様々な困難さを各種デジタルデバイスやコンテンツを日常生活の中に取り入れ、より豊かな生活を送るための様々な方法をご提案されており、今大会ではその一端をご紹介いただいた。これからの視覚障がい教育がデジタルデバイスの利活用により、さらに飛躍的に向上するものと確信できる講演内容であった。

<分科会>

30日(木)の午後から31日(金)の午前にかけて、5つの分科会で各研究実践が報告された。以下はその概要である。

第1分科会～(文系教科、芸術系教科)

助言者：高村明良氏(元筑波大学附属視覚特別支援学校教諭)、松川保氏(元長野県松本盲学校長)

研究テーマ：「コミュニケーション能力や表現力を育てる指導」、「視覚障害の特性に応じて、基礎・基本の力を付ける指導」

上記の研究テーマで6本の研究が発表された。視覚障がい児生のコミュニケーション手段としての点字指導、事物をより具体的に把握するための触察の重要性等が報告された。

第2分科会～(理系教科、実技系教科)

助言者：大内進氏(国立特別支援教育総合研究所客員研究員)、中野泰志氏(慶応義塾大学教授)

研究テーマ：「視覚障害の特性に応じた教材の本質をとらえた指導」、「意欲を引き出す教材・教具の工夫と活用」、「視覚障害教育におけるICTの活用」

上記の研究テーマで8本の発表が行われた。3Dプリンターの活用等についての事例発表やそれらの機器の使用についての問題点などが議論された。

第3分科会～(生活・重複教育)

助言者：引田秋生氏(元筑波大学附属視覚支援学校長)、田中良広氏(国立特別支援教育総合研究所総括研究員)

研究テーマ：「自立と社会参加をめざした基礎的な生活力をつける指導」、「多様化した幼児児童生徒への教育支援のありかた～自立活動の観点から～」

上記の研究テーマで7本の発表があった。寄宿舎のあり方についての助言は興味深かった。今後の盲学校における寄宿舎の関わり方についての考察を深めることができた。

第4分科会～(特別支援)

助言者：佐島毅氏(筑波大学准教授)、神尾裕治氏(長野大学特任教授)

研究テーマ：「視覚特別支援学校(盲学校)における専門性の維持・向上」、「特別支援教育におけるセンター的役割とネットワーク及び課題」

上記の研究テーマで6本の研究が発表された。盲学校の支援に地域の力を借りること、センター的機能の充実等が報告された。

第5分科会～理療

助言者：藤井亮輔氏(筑波技術大学准教授)、小西明氏(元新潟県立新潟盲学校長)

研究テーマ：「理解を深め学ぶ楽しさを実感できる授業の実践的研究～話法の工夫、例示の工夫、発問の工夫、ノートイクの工夫など～」、「理療科および保健理療科における教材を活用した指導の工夫」、「臨床実習における指導上の課題と対策」～意欲を高めるための指導、コミュニケーションの指導、リスク管理など～

上記のテーマで7本の発表があった。晴眼の鍼灸師養成学校との実技交流については全国的にも珍しい試みであり今後の展開に注視したい。

本大会の詳細は「視覚障害教育第121号～松本大会特集号」に掲載されております。